

消毒と除菌はどう違うの？

最近、さまざまな新型コロナウイルス感染症対策の商品を見かけるようになりました。

相談①「感染症対策で、アルコール入りの除菌ハンドジェルを購入した。成分を確認すると、アルコール濃度が書かれていない」

相談②「室内の菌やウイルスが除去できるという、次亜塩素酸水を使った空気清浄機は新型コロナウイルスに効果があるのか」

よく目にする言葉に「殺菌・消毒・除菌」があります。「殺菌」は菌を殺すこと。「消毒」は菌やウイルスを無毒化すること。「除菌」は菌を取り除くという意味です。薬機法^(注)に基づき、有効性や安全性などが確認された医薬品と医薬部外品の商品にだけ「殺菌・消毒」と表示できます。それらの商品には有効成分名や分量について記載が必要です。「除菌」は医薬品・医薬部外品以外の商品に使われ、アルコール濃度の表示義務はありません。新型コロナウイルスには医薬品・医薬部外品である濃度70%、95%の消毒用アルコールが有効といわれています。入手困難な場合は60%台のアルコールを使用しても良いとされています。

今年7月、(独)製品評価技術基盤機構より、新型コロナウイルスに対する、アルコール以外の消毒方法の有効性の検証結果が公表されました。家庭用塩素系漂白剤の成分や一部の家庭用洗剤の成分のほか、次亜塩素酸水も新型コロナウイルスの消毒に対して有効であることが確認されました。しかし、これらはテーブルやドアノブなど、物品の消毒に対しての効果が認められただけです。厚生労働省では、室内の対策は換気が有効で、人のいる環境で消毒剤や除菌をうたう商品を空間噴霧することは、目や皮膚への付着や吸入による健康影響の恐れがあることから推奨していません。消毒や除菌をうたう商品は、目的に合ったものを選び、正しい使用方法で使いましょ。

(注) 医薬品、医療機器などの品質、有効性および安全性の確保に関する法律

消費生活センター(ステーションNビル3階) ☎753・5555

健康相談



池田市医師会
<http://www.ikeda-osaka-med.jp/>

Q 新型コロナウイルス感染症の診断にはどのような検査をするのですか？

A 2019年12月中国の武漢市での集団発生を発端としたこの感染症は、その後世界に拡大しています。

第2波では第1波に比べて、重症化率、死亡率が低下しました。発症から診断までの時間が短くなったことが一因と考えられています。第1波では、検査体制が十分でなく、高齢者や基礎疾患のある方での診断の遅れが重症化につながりました。早期の診断が重要なのです。

この感染症が広まり始めてから突然、PCR検査、という用語を耳にするようになりました。ここでは、このPCR検査を含め、現在、広く用いられている3つの検査法について解説します。

ウイルスは、細菌の約50分の1の大きさの小さな病原体です。遺伝子とタンパク質の殻からなり、人の細胞に入り込み増殖します。抗原はウイルスの表面にあるタンパク質で、抗体は免疫反応により病原体を排

除するために、抗原に対して体内で作られるものです。

① PCR法 II ポリメラーゼという酵素を用いて病原体の遺伝子断片を増幅して検出されます。結核の診断などすでに広く用いられています。鼻、喉、唾液から検体を採取します。精度が高いものの専用機器や熟練した技師を要し、検査時間が長い、費用が高いなどの短所もあります。現在、全自動化された機器も導入され、検査体制は拡大されつつあります。② 抗原検査 II 抗体を用いてウイルスの抗原を検出します。インフルエンザ検査のように鼻・喉のぬぐい液で短時間に検査できるキットもあります。PCR検査に比べ、簡便で安価ですが、精度が少し劣ります。診断には有用です。③ 抗体検査 II 血液中の抗体を検出します。これまでに感染したかを調べる検査です。短時間で簡単に検査できるキットもありますが、感染しているかの確定診断に用いることはできません。疫学調査などには有用と考えられます。

国内における1日のPCR検査実施件数は、3月は4000件止まりでしたが10月には約2万5000件に増えました。経済の拡大のためには、さらに件数を増やすことも望まれています。今冬のインフルエンザの流行時には、抗原検査も急速に普及していくものと思われれます。

この新しい感染症は、正しく理解し、正しく恐れることが大切です。皆で力を合わせてこの難局を乗り越えましょ。

池田市医師会